

幼児教育は 環境教育



青空保育たけの子は「森のムツレ教室」を取り入れていきます。今年度はたけの子のたちだけでなく、一般募集をして月1回ペースで年6回開催し、先日、ファイナルを迎えました。本当はいつもの戸塚山で行いたかったのですが、あいにく11月19日の天気予報は雪(！)。あまり山に慣れていない子どもが多いので、無理だなどと判断し、急遽たけの子の周辺を歩くコースに変更しました。その代わり(?)ムツレさんだけでなく、高原の妖精フェルフィーナと川の妖精ラクセにも来てもらうという豪華キャストを実現。

東北文教大学の学生さんたちの協力のおかげです。



子どもたちは、道々「自然の道クイズ」を解きながら歩き、ムツレさんたちに出会い、お土産やお手紙をもらい、たけの子に戻ってきました。雪が降ってきて寒かったけれど、子どもたちの目はキラキラしていました。

自然の道クイズの問題は、子どもたちをとりまく自然に目を向けるようにできています。ムツレさんとの3つの約束、草についている卵はなんの卵?、この木は何に見える?、草相撲対決、木の赤ちゃんは何の木になる?などです。

一見雑草しかないように見える道だけれど、実は「雑草」という名前の草はなくて、どんな草(生き物)にもすべて名前があって役割があることを

子どもたちは体験を通して感じていきます。

たけの子に戻ってきてから、野外調理器具のコツヘルを使って、ホットケーキを焼いたので、混ぜるところから子どもたちにやってみてもらいました。

子どもたちは、普通に混ぜただけの生地とも混ぜただけの生地とも

のすぐく時間をかけて混ぜた生地、どっちがおいしいか、という実験をしていました。わたしは途中で帰らなくてはならなくて、感想を聞いていないのですがどうだったのでしょうか、気になるところです。

「幼児教育は環境教育」と言われています。それは、自然環境だけではなく、人的環境、物的環境も含めてそう言われているのです。

わたしたちの方針は子どもたちの周りに豊かな環境を用意し、その環境に子どもたち自身が自発的・能動的に働きかけ、様々な体験をする中で成長・発達していくことを意図しています。わたしたちの役割は、「環境を通して間接的に教育を行う」ことなのです。

もちろん、直接的に言葉でも関わっていますが、それよりも、子どもたち自身が発見し、探求できるように環境を整えることの方が大切だとわたしは思っています。

たけの子に来ると大人も子どももイキイキとしてくる、癒される、とよく言われます。それはその様に整備された環境があつてこそです。

そして、「いい子」の時も「悪い子」の時もいていい、居場所があるからです。



いい子の時しかそこにいられないとしたら、わたしなどはずっと仮面をかぶって生きていくしかないかもしれません。余談ですが、「パーソナル」という言葉は仮面という意味なのですが、大人になるということはこの仮面をその場にに応じて使いわけるといふことなのだと言ったことがあります。たけの子はその仮面をそつと外して、泣いたり、笑ったり、怒ったり、喜んだりできる場所なのだと思います。そして、それを教えてくれるのが自然という環境であり、人とのつながりなのではないでしょうか。 辺見妙子

寄付や支援をいただいた方々 11月 順不同

支援金

渡部 鋭幸様

岩戸 五郎様

糸島しましまプロジェクト様

自家焙煎珈琲の店 binno 菅原 健児様

長岡 孝男様

曾根 裕子様

佐久間 美千子様

加茂 亜子様

高橋 千春様

石井 洋子様

土田 英順様

野菜 ブナの木マルシェ様

布製品 古野間 久様

きのこ、うどん 森雅英様

手打ちそば体験 富山 正孝様 富山 香代子様

ボランティア

長沢 貢様 細谷 洋一様

曾根 裕子様 遠藤 正則様

小林 央奈様 小松 陽香様

渡邊 圭祐様 高橋 京果様

原田 綾子様 川口 琢磨様

大江 奈緒様 生熊 彩香様

加藤 琴乃様

<gooddo ご支援金>

2425 円

いいね! 371 円

毎日クリック等 2054 円